

日本大学生の感想(抜粋)

- グループディスカッションにいたメンバーが活発で、たくさん興味深い話を検討できてよかったと思います。例えばディスカッションが始まる前に、男女不平等の話になると思わなかったが、日中の働き方の差を見て男女問題について考えられてとてもよかったと思う。最後に東京大学の教授の補足説明がわかりやすく、ポストコロナ時代の働く Style の見解は自分の就活にも役に立ち参考になると思います。
- なかなか中国人の学生とこのように交流する機会がなかったため、とても新鮮でした。ディスカッションの内容も、国や地域の特徴が働き方の嗜好への影響がかなり多く興味深かったです。例えば中国人学生側は、一人っ子政策などの影響の話もされており、期待を持たれているため大企業や安定した職に就くことを望まれるという話をされていたことが特に印象に残っています。
- 中国の文化について、実際に中国の方に質問することができ、とても良い機会になりました。働き方に大きな違いはありませんでしたが、日本とは違う見方を経験することができ、とても興味深かったです。それだけでなく、交流会を通して実際に訪中することなく中国人の友人を作れたことに感謝したいです。
- 日頃中国の学生さんと交流することはないため、今回のオンライン交流を通してより具体的に、なおかつ楽しく「仕事観」の共有をすることができました。私たちのグループで特筆すべきは、人生において仕事優先と感じる学生さんが多数を占めていたことです。ワークライフバランスの均衡化が叫ばれる昨今にあって、仕事に対して「自己成長」や「クリエイティブ」を求める姿勢はむしろ、旧態依然とした「仕事と私生活」の二項対立に留まらず、多彩な仕事から楽しいと思うことを選びとる、かつ私生活も充実させる、という現代の若者が人生の豊かさの指標を「楽しみ」に据える姿の表象とも言えるかと思います。

議論の焦点は「ベンチャー」か「大企業」かに絞られました。そこで私は中国の働き方が案外フレキシブルであることに驚かされました。国家体制が働き方にも多少なりとも影響するのでは？という疑問はすぐに払拭され、各々が個性的なキャリア・パスを描いていることがわかりました。新しいビジネスを興したい、一気に成長するには大企業の方が整っている。その意識の多様さはむしろ日本人学生よりも充実しており、キャリア形成のプロセスを重視する姿勢は実に興味深いものでした。

「働き方」に主軸を置いた本企画において、私は「異文化理解」の枠に留まらない交流ができたように感じます。いわゆる交流を目的としたお話し会ではなく、意見をぶつけ合う中でそれぞれの職業観を明らかにし、高等教育に身を置く者だからこそ語れるものがあると痛感しました。